

八尾徳洲会 総合病院

手術管理システムと 電子カルテを連携へ

八尾徳洲会総合病院（大阪府）は、運用中の安全で効率的な手術をサポートする「手術管理システム」と電子カルテとの連携を、3月をめどに開始する。手術に用いたすべての医療材料の使用実績データを自動的に電子カルテに反映させるのが狙い。手術室スタッフがデータ入力を行う手間が省けるなど、よりいっそう業務の効率化を図ることができるとしている。

医療材料のデータ入力自動化

手術管理システムは、手術に使用する医療材料の在庫管理、使用状況・実績の把握とその情報の蓄積、使用状況に応じた迅速な自動発注、手術ご



デジタルピッキングにより手術に使用する医療材料の場所・数量が一目瞭然

とに医療材料を集めるピッキング（選んで取り出すこと）作業の補助などを担う。同システムを利用することで、手術室の稼働率や手術の原価情報、収支の予測と実績などを簡単に算出できる。しかし、使用した医療材料の電子カルテへのデータ入力は手術室の看護師が行っており、多くの手術を担当するなかで負担

グループホームひめゆり

にんじん収穫祭で認知症啓発

グループホームひめゆり（沖縄県）は2月1日、「美らキャロット」の収穫祭に参加した。今年で7回目。美らキャロットは、スイカに近い甘さ（糖度9～12度）が特徴のにんじん。

収穫祭は県内一のにんじん生産量を誇る糸満市の農業戦略産地連絡協議会が産地力強化と消費拡大、食育を目的に年に1回開催。今年は同ホームの入居者さんと職員をはじめ、市内外の園児、市役所職員ら約500人が参加した。

入居者さんらは子どもたちに手を引いてもらったり、車いすを押してもらったりして一緒ににんじん堀りを楽しんだ。

満面の笑みを浮かべる入居者さんの姿を見て、嘉数利子所長は「認知症を正しく理解してもらうには、地域のひとと認知症の方が実際に触れ合って交流するのが一番いいと思っています」と笑顔を見せる。授業の一環として生徒を参加させ、入居者さんらを支援した喜屋武小学校校長に感謝を表した。

嘉数所長は「今後も認知症の啓発活動のひとつとして、率先して地域の行事に参加していきます」と抱負を語った。



子どもから採れた「美らキャロット」を贈られ笑顔の入居者さん



患者さん、現地スタッフとともに透析センターの開設を喜ぶ日高部長（右から4人目）

タンザニア

透析センターオープン

徳洲会が機器など全面支援

徳洲会グループはこのほど、アフリカのタンザニアに10台の透析機器を寄贈、これにより透析センターがオープンした。同国とは2003年に医

療協力の覚書を交わし、10年には同国から4人の透析研修チームが湘南鎌倉総合病院（神奈川県）を訪れ、同院で研修を受けていた。

透析センターは同国ドマ大学保健センターの隣にオープン。開設にあたり湘南鎌倉病院の透析支援医療チームが同国を訪問した。支援に向かったのは日高寿美・血液浄化部部長、徳本直彦・腎移植外科部長、宮本雅仁・血液浄化部医長らで、現

地スタッフの指導や設備の確認を行った。なかでも日高部長らは、重度の糖尿病と高血圧で意識がもうろうとした患者さんに対応。また、徳本部長、宮本医長らは救急搬送された重度の妊娠中毒症で意識不明の患者さんに対応した。

的確な判断・処置で2人も一命を取り留め、同センターにおける地域での役割がすぐに発揮された。

2月11日にはオープン

集めることができます」とメリットを強調する。また、手術室の八楸貴則・看護部主任は、「電子カルテの連携と同時にシステムをバージョンアップします。これにより、術式に応じて必要な手術スタッフの人数や経験を考慮した配属がよりスムーズに実施できるようになります」とアピール。

システムの導入とその改善を重ねた結果、同院の手術件数は年々、右肩上がりで推移している。同院が新築移転した09年の月間平均は約250件、10年は約321件、11年は約337件、12年（11月までの平均）は375件と着実に増加。

同院は安全性も追求している。7室ある手術室の状況をリアルタイムで

モニタリングし、1週間分の映像記録を残すNVR（ネットワークビデオレコーダー）システムを構築。麻酔科医局に60インチのモニターを設置し、患者さんの生体情報なども含めて可視化した。

「手術管理システムとモニタリングシステムは、手術を安全で効率的に実施するための車の両輪にあたり、いずれも欠くことのできないものです」と

と谷部長は力説する。将来的には、安全性や効率性をより高める方策として、体内への置き忘れ防止のためのICタグ付きガーゼや、手術室に出入りする職種や人数、高額医療機器などを瞬時に把握し、手術計画の作成やより詳細な原価計算などに役立つRFID（タグに記録された情報を電波で認識するシステム）の導入を検討する。

がん診 肺がん

早期発見へ低線量CT

鹿児島徳洲会・大隅鹿屋・山川病院

鹿児島徳洲会病院、大隅鹿屋病院、山川病院（いずれも鹿児島県）は、肺がん検診に低線量CT（コンピュータ断層撮影装置）を用い、肺がんの早期発見に貢献している。

肺がんによる死亡者は全国的に増加傾向が続いている。とくに鹿児島県は人口10万人当たりの肺がんによる死亡率が59.2と全国平均55.2を上回る（2010年）。こ



多くの見学者に囲まれるなか、徳本部長は動脈と静脈をつなぐブラッドアクセス手術を実施

うした状況を受け、県は10年度から、肺がんの早期発見に有効とされる低線量CTによる検診の実施機関を指定。検診費用の一部を助成し、受診を後押ししている。

12年度は66の医療機関を指定。徳洲会グループの病院では3施設が指定を受けた。

鹿児島病院健康管理センターの関真太郎副主任は、「身体への負担を小さく抑えながら、肺がんの早期発見が期待できます」とアピールする。

照射する放射線量などは県が定めており、通常のCT検査のおよそ4分の1程度の被ばくですむ

侍学園スクオーラ・今人の長岡理事長が寄付呼びかけ

いらぬ本はありませんか？

不全状態の若者の社会復帰へ

引きこもりやニート（若年無業者）を中心に社会復帰をサポートする民間教育施設、認定NPO法人「侍学園スクオーラ・今人（いまじん）」の長岡秀貴理事長は2月10日、徳洲会グループ小児科部会で講演し、活動資金を捻出するため、不要になった書籍の寄付を呼びかけた。

長岡理事長は元高校教師で、2004年に教え子らと地元・長野県に同学園を設立。現在では、千葉西総合病院、中部徳洲会病院（沖縄県）の小児科で、心理相談員として不登校児などのカウンセリングもしている。また、財団法人関西カウンセリングセンター（大阪府）で、カウンセラーの養成にも注力している。

4月には東京・渋谷にフリースクールを開校し、不登校児など不全状態にある若年者をサポートする計画。今後は大阪、沖縄でも同様のスクールを開校する方針だ。

古本寄付の問い合わせ先は
バリューブックス（☎0120・826・295）まで

2・27 医療講演
名古屋徳洲会総合病院（愛知県）
名古屋徳洲会総合病院は2月27日、「心臓病の予防と治療」と題する医療講演を開催する。講師は、心臓血管外科の景山聡一郎医師が務める。春日井市の鷹来公民館で、午後3時から。

医療連携室
☎0568・51・8711